

様式 A 先端技術特別講義（専攻科教員）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	先端技術特別講義 Special Lecture on Advanced Engineering		単位 1
	一般・専門の別・ 学習の分野	専門・ 自然科学系共通・基礎	授業形態・学期	講義・通年
	対象学生	専攻科・全学年全専攻	必修・選択の別	選択
	担当教員・所属	小西大二郎・総合理工学科機械システム系／中村重之・電気電子システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	工学／社会科学		
	専攻科学習目標との 関連	本科目は専攻科学習目標「(6)校外実習，先端技術特別講義や学協会への参加を通じて，地域社会との連携を図るとともに，地球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A)技術に関する基礎知識の深化，A-1:工学に関する基礎知識として，自然科学の幅広い分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的には「G-1」にも関与する。内容は多岐にわたるので，場合により地球的視野に立った人間性の育成や地域社会との連携による総合的能力の展開にも関連する。		
	授業の概要	学生の専門に直接関係する内容や，周辺の各分野における最先端の技術動向ならびに研究状況を知るための特別講義である。知識を深めるとともに視野を広げ，社会とのかかわりや技術が社会に及ぼす影響について広く学ぶ。		
	学習目的	日進月歩の技術の動向を知るとともに，社会における技術の重要性を認識することにより，研究や学習の新たな展開を図るための一助とする。		
	到達目標	1. 先端技術の動向を知り，世の中で求められている技術や工学の内容を理解し，その概要を適切に説明できる。 2. 社会とのかかわりや技術が社会に及ぼす影響を考慮し，先端技術の方向に関して，自らの考えや意見が言える。		
履修上の注意		本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。この科目は特別講義であり，講義では短い時間にエッセンスが話されるのみであることを自覚し，講義以外の学習にも時間をかけると共に，課題に対しても十分な時間をかけて取り組むこと。		
履修のアドバイス		幅広いテーマについて実施されるので，狭い専門にこだわることなく知見を拓けるように努力することが大切である。		
基礎科目		これまで学んできた知識全般		

関連科目	全ての科目
------	-------

様式 B 先端技術特別講義（専攻科教員）

授業にかかわる情報				
授業の方法		専攻科の指定する講演会・研修会・遠隔授業等の中から主体的に課題を選択し、これに参加するとともに、指定された課題を仕上げる。専攻科ホームページおよび電子メールで案内を流すので、見落とさないようにすること。		
授 業 計 画	開講週		授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)
	通 年	1 回目	● ガイダンス（年度初めのオリエンテーションで実施）	● 4 回以上の指定された課題の完成 （報告書の作成）
		2 回目	● 担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加	
		3 回目	● 担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加	
		4 回目	● 担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加	
		5 回目	● （担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加）	
		6 回目	● （担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加）	
		7 回目	● （担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加）	
		8 回目	● （担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加）	
			上記の講義等に 7 回以上参加する必要がある。	各回の小課題で 4 回以上の合格点を貰う必要がある。
教科書，教材等		必要に応じて参考資料を配布		
成績評価方法		個々の課題ごとに担当教員が個別に明示するが，主に講義後の課題に関するレポートの評価による。本科目として開催される 7 回以上の講義等に参加し，4 回以上の小課題を提出し合格点をもらうこと。4 回以上の小課題で合格点をもらった場合は，成績の良いものから 4 つの平均点をもとに，年度末の専攻科運営委員会で最終の単位認定を行う。		

受講上のアドバイス	本科目は原子力人材育成関連科目である。 主として、外部講師による授業となるので、受講に際しては本校学生として礼を失しないように十分注意すること。
-----------	--

ルーブリック								
	優		良		可		不可	
評価項目 1	講演内容について、十分に調査し、その内容も含め模範となる課題レポートを作成することができる。		講演内容について、調査し、その内容も含め課題レポートを作成することができる。		課題について、課題に応じたレポートを作成することができる。		課題に応じたレポートを作成できない。	
評価項目 2	社会とのかかわりや技術が社会に及ぼす影響を考慮し、自らの考えや意見を十分に含めた模範となるレポートが作成できる。		社会とのかかわりや技術が社会に及ぼす影響を考慮し、自らの考えや意見を含めたレポートが作成できる。		レポートに対して、自らの考えや意見を含めることができる。		レポートに対して、自らの意見を含めることができない。	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	